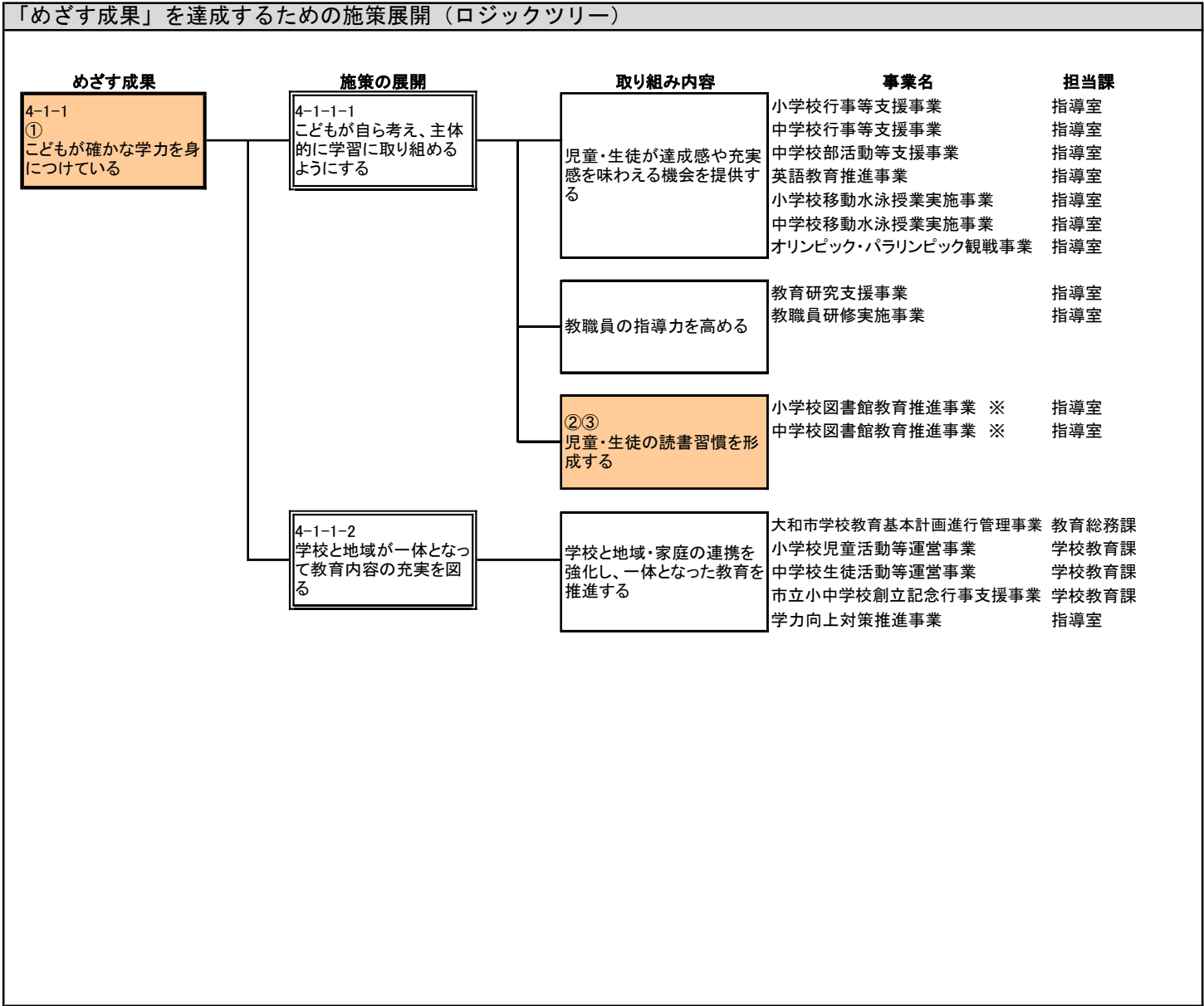


令和３年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4－１	こどもの広がりのある学びを育む
めざす成果	4－１－１	こどもが確かな学力を身につけている
	4－１－２	こどもが個性・能力にあった教育を受けている



※連携の事例

事務事業等	関係する課等	取り組み内容
子どもの読書活動推進に係る取り組み（小・中学校図書館教育推進事業）	指導室ほか 関係各課	子どもたちが読書を通じて、知識や情報得るだけでなく、思考力、表現力、豊かな感性なども身に付けられるよう、大和市子ども読書活動推進計画に基づき、学校、図書館、こども関連部署等が協力して読書活動を推進する取り組みを実施しています。



【子ども読書活動推進計画に記載の取組の担当課（機関）】
ほいく課、すくすく子育て課、こども・青少年課、図書・学び交流課、指導室（各学校）、図書館、生涯学習センター

所 管 部	教育部
-------	-----

【成果を計る主な指標】

指標の名称			前期基本計画期間（Ｒ１～Ｒ５年度）			
			計画当初値	実績値（Ｒ１）	実績値（Ｒ２）	中間目標値（Ｒ３） 最終目標値（Ｒ５）
①	基礎的・基本的な学習内容の習得を計る振り返り調査の通過率	（小３～６）	６０．３％	６８．４％	７２．８％	７２．０％ ８０．０％
		（中１～２）	５７．１％	６２．８％	８０．０％	７０．９％ ８０．０％
②	児童・生徒の１か月の平均読書冊数	（小４～６）	１４．６冊	１６．８冊	１５．５冊	１５．４冊 １５．８冊
		（中１～３）	４．４冊	４．８冊	５．０冊	５．２冊 ５．６冊
③	「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数		６，９９２人	７，０９７人	１，９３９人	７，２００人 ７，３４０人

※指標①について、大和市学習理解度調査において学習内容を習得したと判断できる調査点数に達した児童生徒の割合を表します。

※指標③について、「図書館を使った調べる学習コンクール」とは、「調べる学習」を通じて、図書館の持つ力（蔵書、検索システム、レファレンスなどの調べる機能など）を活用し、体験や創作などと結び付いた実践的研究に取り組んでもらい、その成果を広く普及させることを目的としたコンクールです。

【令和２年度までの主な取り組み内容及び今後の方針】

施策の展開	主な取り組み内容	今後の方針
こどもが自ら考え、主体的に学習に取り組めるようにする	■外国語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、言語、文化について理解を深めるコミュニケーション力の向上を図るため、市内の全小学校へ外国語活動指導助手と市内の全中学校へ英語指導助手を派遣しました。（Ｒ２年度：小学校2,465回、中学校684回） ■学校図書館の機能を充分发挥できるよう、図書環境の充実を図るため、国が定める学校図書館図書標準に基づき、計画的に図書を購入しました。（Ｒ２年度：小学校218,524冊、中学校137,286冊） ■「図書館を使った調べる学習コンクール」への応募を各学校を通じて働きかけました。	■義務教育９年間を見据えた英語教育を推進するため、新学習指導要領の検討と、小・中学校が連携した英語教育の研究を継続していきます。 ■学校図書館機能を充分发挥できるよう、今後も蔵書の充足率と鮮度を踏まえた選書を継続実施していきます。 ■児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実現のため、「学習センター（児童・生徒が自主的に学習する場）」及び「情報センター（情報を収集・蓄積し、児童・生徒に提供する場）」としての学校図書館の機能を充実させていきます。
学校と地域が一体となって教育内容の充実を図る	■児童生徒への学習支援を行うとともに、特に小学校の若手教員の指導力を養うことで、総体的に学力向上を図るため、全小学校において、学校の空き教室等を活用した「放課後寺子屋やまと」「放課後子ども教室」を開催し、児童の学習支援を行いました。（Ｒ２年度：放課後寺子屋やまと参加者延べ人数69,802人、放課後子ども教室参加者延べ人数78,781人） ■加えて、経験年数の少ない小学校教員に対して放課後寺子屋やまとコーディネーターによる授業参観や面談を実施し、授業力・指導力の向上を図りました。（Ｒ２年度授業参観・面談回数：5,108回） ■全中学校において、授業中及び放課後に生徒の学習支援を行う「中学校寺子屋やまと」を実施しました。（Ｒ２年度参加者延べ人数：10,301人） ■全中学校において、冬休み学習支援を開催し、長期休業期間中における学習支援を行いました。（Ｒ２年度中学校冬休み寺子屋やまと参加者延べ人数：1,476人）	■令和２年度において、こども部から教育部指導室へ移管された放課後子ども教室と、放課後寺子屋やまとを連携して実施してきた経験をふまえ、全児童が参加しやすい環境の整備とより細やかな支援体制の整備のさらなる強化を目指します。 ■中学校寺子屋やまとが各学校に浸透しており、参加生徒数増加にあるため、より一人ひとりのニーズにあわせた学習支援体制の充実を図ります。